



銀杏のおはなし



※写真は、あくまでもイメージです

今秋…『オッサン A と B の会話』

①「朝の俊徳丸和尚の法螺貝、へたくそでかなわんなあ〜」②「朝からやる気なくしますわ」
③「しかしな、秋からお寺の銀杏を食べているせいで、吹くと法螺貝から炎が噴き出すようになったらしいよ！」④「嘘や！そんな効き目あるんやったら拾いにいかんと！」⑤「ヘルメットかぶって行きや、パワーがありすぎて実が隕石のように落ちてくるそうや。昨日も一人気絶しとったわ」… とデマを拡散してみました。

ウチのお寺の銀杏の木は樹齢推定 450 年の大木で、『養生の木』と呼ばれています。我が町の保護樹第 1 号に指定され、町がインターネットで初めてホームページを開設した際の表紙を飾った木で、拙寺の歴史を見守り続けてきました。また木下にある檀家さんの墓地を雨や夏の強い日差しから遮る涼しげな木陰を作り小鳥たちの眠りの場となっています。元来、更地に神社やお寺を建立する際は銀杏の木を 3 本並べて植えたそうです。近くで火災があった時には、燃えにくい葉ゆえに類焼から守ってくれるからです。半面その落ち葉を掃除する時には他の葉より重いし燃えにくいし大変難儀します。また大風から建物を守ってくれます。拙寺でも平成 5 年 6 月に竜巻に襲われました。夕方

の一瞬の出来事です。あっという間に真っ暗になり、それまで経験したことがない怒り狂った風で物凄い音だったのを忘れません。本堂の鬼瓦だけが跡形もなく破損し、多くの銀杏の枝が折れ落ちていました。まるで銀杏が仁王立ちになってお寺を守ってくれたのだとわかりました。今でも私は、昼間に近くを台風が通過する際は必ず銀杏の近くに行き見上げてその様子をよく観察することにしています。そうすると、私が抱いていた竜巻の時のイメージとは全く違い、銀杏は強風に全く抵抗することなく、金メダリスト荒川静香がイナバウワーをしているがごとく大風に耐え美しくしななって守ってくれています。銀杏のボディーはもろいようで大変弾力性のある特質の木であることがわかります。よく落ち葉の掃除が大変だからという理由で銀杏を伐採してしまう住職がおいでですが、あれは愚かな行為だとしか言えません。

拙寺の銀杏も過去伐採の危機が 2 回ありました。明治 20 年国鉄東海道本線建設のため 3 本のうち 2 本が伐採されました。残った 1 本が現在の銀杏です。奥三河の木こり職人さん 8 名で伐採したそうです。その木をすぐに基盤屋に売り飛ばしたせいで全員が瞬く間に命を落とし境内の墓地に無縁佛としてお祀りしています。現在も「にごり酒」をお供えします。2 回目は、戦争中岐阜にはゼロ戦の飛行場『現在の航空自衛隊岐阜基地』があり、そこを攻撃するため伊勢湾から侵入したアメリカ軍機の地図に銀杏が載っていることで伐採されそうになりました。そんな話を聞きながら祖母と黄色くなった実を拾ったものです。

俊徳丸